



どちらにもとれる文


曖昧な文 # 読点 # 語順 # 修飾


それでは意味がわからない


 テーヘンだ、てーへんだ！ **メアリーが泣きながら逃げるジョージ**
を追い掛けてるぞ！


 そんなに泣くななんて、メアリーに何があったの？


 いや、泣いてるのはジョージだろ。メアリーに何をされたんだ？


 ということで、泣いてるのはどっちだ、というのが今回のテーマ、
じゃなくて、複数に解釈できる **曖昧な文** を取り上げるよ。

 で、どうしたらいいんだろう？


 「メアリーが泣きながら」の後に点（**読点**）を打てば、泣いているのはメアリーだって分かる。「メアリーが」の後に点を打てば……。


 「泣きながら逃げるジョージ」の姿が浮かび上がってくるね。点で区切ることで、意味のかたまりがはっきりするのか。


 文の組み立て（**語順**）を変えるともっと明確になるよ。「逃げるジョージをメアリーは泣きながら追い掛ける」か「泣きながら逃げるジョージをメアリーは追い掛ける」のように。

 泣いてる理由は分からないけどね。


美しいのはどっち？


 曖昧な文とかけて、内定を複数の会社からもらった大学生ととく。


 そのころは？

 しゅうしょく（修飾・就職）するのは一つにしておきましょう……。

「**修飾**」というのは、前の言葉が、後に続く言葉を説明するということさ。曖昧な修飾の例として、シューベルトの歌曲集の邦題「美しい水車小屋の娘」がある。「美しき」は「水車小屋」を修飾しているともとれるし、「娘」ともとれる。

 まあ、常識的に考えれば娘でしょ。

 「水車小屋の美しき娘」だと、理屈っぽい感じで美しくない。


 多少曖昧なところがあるくらいが心に響くかもしれないね。ただし、情報を的確に伝えなければならない実用的文章の場合、曖昧さが残るのはちょっと困る。


曖昧さを生む文のパターン


<曖昧劇場～第1幕> 「×が△と▲に～」

校舎の裏にうわさの3人が集まって、陰悪な雰囲気になってる。どうやら、**ユミ子がマサトとケンジに文句をつけたらしい。**

 2人を相手にして一歩もひかないユミ子はさすがだ。

 それなら、「ユミ子が、マサトとケンジに文句をつけた」「マサトとケンジは、ユミ子に文句を言われた」としたいね。

 ユミ子はマサトとつるんでるって、解釈もできなくもない。

 だとすると、「ユミ子とマサトが、ケンジに文句をつけた」「ユミ子はマサトと一緒に、ケンジに文句をつけた」とするのがいい。

<曖昧劇場～第2幕> 「～い×の○」

むかし、むかし、猫が大好きな女王様がおったそうな。女王様は家来たちに命令しました。「私の部屋に**大きい猫の絵**を飾っておくれ」。女